

神奈川県議会議員  
石川たくみ活動報告

# かけはし

## 初の代表質問に登壇

令和4年9月14日、自民党県議団を代表して、私としては初めての「代表質問」に登壇しました。わざわざ三浦市から傍聴に来てくださった後援会の皆様、ネット中継等で見守って下さった皆様、誠にありがとうございました。今回の「かけはし」は質問内容の一部を抜粋して取り上げます。

## 神奈川県の観光振興施策について

### 城ヶ島・三崎地域の「観光の核づくり」継続を！

**【石川質問】** コロナ禍での3年目となる今、どのような観光需要喚起策を行い、周遊観光の促進に取り組んでいくのか、見解を伺います。

**【知事答弁】** コロナ禍の影響により、観光産業はまだまだ厳しい状況にあり、今後も支援が必要です。そこで、県内旅行の割引を行う「かながわ旅割」等の観光需要喚起策について、引き続き実施するとともに、対象を全国に拡大した「全国旅行支援」については、国の動向にあわせて、対応します。

また、県内周遊観光を促すプロモーションとして、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放映に合わせた、ゆかりの地を巡るデジタルラリーを、8月から実施しており、多くの方にご参加いただいています。ゆかりの地は、鎌倉をはじめ、横須賀や三浦、真鶴、湯河原など県内各地にあることから、関係市町と連携しながら、周遊観光の促進を図っています。例えば、三浦市では、京浜急行電鉄等と連携し、「みさきまぐろきっぷ」等の企画切符を使ってデジタルラリーに参加した場合に、特典がもらえるキャンペーンを実施しています。

今後とも、現在改定中の「神奈川県観光振興計画」で示す、中長期的な観光戦略に基づいて、周遊観光を促すプロモーションに取り組んでいきます。県は、引き続き、観光需要喚起策を講じることで観光事業者を支援するとともに、周遊観光の促進などの観光振興施策を積極的に行うことにより、地域経済の活性化につなげてまいります。

**【石川質問】** 政府は、海外からの入国者数の上限を撤廃し、インバウンドを強化しようとしており、観光需要が高まるのではないかと大いに期待しているところです。外国人観光客誘致も含めて、ポストコロナを見据えた施策が求められます。県では、横浜、鎌倉、箱根地域に次ぐ、新たな国際観光地の創出のため、城ヶ島・三崎、大山、大磯の3地域で推進する、「観光の核づくり」事業に取り組んでいますが、今後に向けて、これまでの取組みと課題について、知事の見解を伺います。

**【知事答弁】** 県は、「観光の核づくり」事業により、城ヶ島・三崎、大山、大磯地域における観光資源の発掘・磨き上げ等、地元の取組を10年間支援してきましたが、鉄道事業者や旅行事業者などの民間事業者の参入も進み、各地域の主体的な取組により、地元は盛り上がりを見せています。つい先日も実は、三崎・城ヶ島に行ってきた。どんどん生まれ変わる姿を実感して、大変頼もしく思ったところである。一方で、コロナ禍により、計画どおり進めることができなかった事業があることから、今後の事業のあり方については、アドバイザー委員会、各地域の市町、民間事業者等の意見を伺いながら検討を行ってまいります。

**【石川要望】** 「観光の核づくり事業」は、今年度、最終年度となりますが、これまでの観光資源の磨き上げ、投資してきた事業は道半ばであり、コロナ禍で効果検証できる状況にありません。検討していく、との前向きな言葉をいただいたので、是非、これまでの取組を軌道に乗せていくためにも、「観光の核づくり事業」を継続することを要望します。コロナ禍により大きなダメージを受けた観光産業の回復には、引き続き、県の支援が必要です。観光事業者の声を聞きながら、的確な支援を継続していくとともに、新たな観光振興計画に則り、観光産業の活性化を図るよう要望します。



すべては三浦のために

率的な監視が可能なドローンを、市町等に導入していただくとともに、さらなる新技術の活用を図っていく必要があります。

そこで、県は、日本ライフセービング協会と連携して、ドローンの効果を具体的に解説する動画を作成し、市町等にドローンの導入を促していきます。また、海水浴場が開設されない海岸で、引き続き、安全対策を実施するとともに、例えば、救助が必要な人を、ドローンにより自動的に発見する新技術について、導入の可能性を検討します。こうしたことにより、県は、「神奈川モデル」による海水浴場等の安全対策を進め、水難事故から、いのちを守る取組を、しっかりと進めてまいります。

**【石川要望】** 県はコロナ禍によって、海水浴場が開設されない海岸の安全対策に取り組んだことで、ドローンの活用等、新しい海水浴場の安全対策「神奈川モデル」を示したことは、大きな成果です。この3年間の成果を更に発展させ、答弁いただいた通り、県内海水浴場にも波及させていただきたいと考えております。

ポストコロナ時代において、海水浴場のあり方も変わってきております。ライフセーバーの人員不足等、各地で課題を解決しなければいけないことも出てくると思います。日本ライフセービング協会や市町等と連携し、県として海岸等の水難事故防止に向けて積極的に取り組むことを要望します。

化してまいります。

**【石川要望】** アライグマやタイワンリス等に農家の方も非常に困っております。被害をもたらすいずれの動物にしても、生息数が大幅に増加してしまう前に、早期に対策を講じることが肝要です。

管理計画を策定する野生動物には、イノシシも対象となっておりますが、近年このイノシシが三浦半島に出没しており、市町から対策が求められております。先日、横須賀市津久井浜のミカン園において、体重80キログラムのイノシシが捕獲されたと聞きました。三浦市への侵入危機も迫っております。このイノシシの問題も含め、実効性のある対策を着実に推進するよう計画策定に努めることを要望します。

蓄積することができました。

まだ、コロナ禍の収束が見込めない中、来年度以降も海水浴場が開設されない海岸が生じることも想定されることから、3年間の経験を活かし、県が継続的に海岸の安全を守っていくことが重要と考えます。

そこで、海水浴場等で、これまで県が安全対策に取り組んできた成果と、今後、どのように取り組んでいくのか、見解を伺います。

**【知事答弁】** 本県の夏の海岸には、多くの方が訪れることから、海水浴場はもとより、海水浴場が開設されない海岸においても、安全を確保する取組が、大変重要です。県では、令和2年から、海水浴場が開設されない海岸において、市町や関係団体等と連携して、ライフセーバー等を配置し、パトロールを行うなど、安全対策を行ってきました。また、救助用の浮環を搭載したドローンを導入して、監視を行うなど、先進技術の活用も進めており、今年度は、ライフセーバー自らが、ドローンの操作方法を習得する講習会も開催しました。

この3年間の取組を通して、県を中心に、市町や関係団体等が広域的に連携し、海水浴場等の安全を守る、本県独自の「神奈川モデル」が構築できました。

今年からは、鎌倉市が独自に、ドローンによる監視を導入するとともに、離岸流の発生を自動検知するAI搭載カメラの設置といった、新たな取組も始めており、「神奈川モデル」が進化しつつあります。今後、海水浴場等の安全対策を、一層充実させていくためには、効

## 鳥獣被害対策について

### アライグマやタイワンリス等の外来種対策

丹沢や箱根の山麓などでは、ニホンジカ、ニホンザルなどの鳥獣による農作物被害が続き、また、都市近郊の緑地や市街地周辺では、アライグマやクリハラリス(タイワンリス)などの外来種が定着し、生息地を拡大しています。鳥獣被害対策について、今後どのように取り組んでいくのか、見解を伺いました。

**【知事答弁一部抜粋】** アライグマについては、生態系への影響や農業被害、生活被害が生じていることから、県は自ら防除実施計画を定め、計画的に捕獲するなどの対策を進めてきました。

本年5月には、いわゆる外来生物法の改正が行われ、外来種の防除に係る県や市町村の責務が明記されたことから、県はアライグマなどの外来種について、市町村と連携して、広域的・専門的見地から捕獲対策を強

